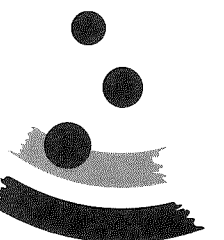


片貝新聞

発行所 片貝新聞社
〒947-0101 小千谷市片貝町10367-4
TEL 0258-84-3246 FAX 0258-84-2632
編集発行人 吉原芳郎
印刷所 吉原印刷機

題字 黒崎敬源氏

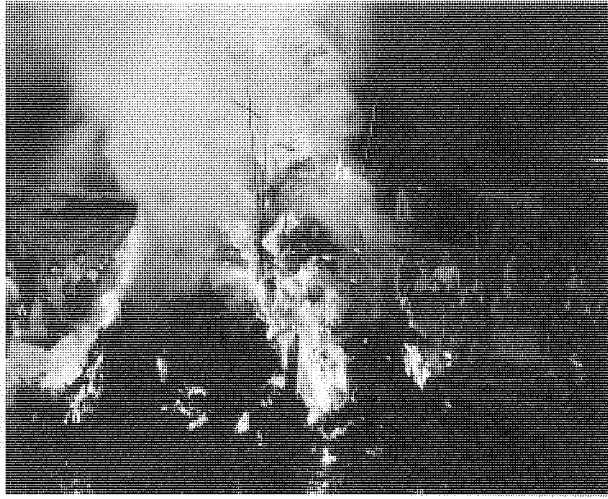


JA片貝町シンボルマーク
天の恵み地の恵み

今年から成人の日第2日曜日

強風なんの、塞の神終わる

火にあたり無病息災祈願

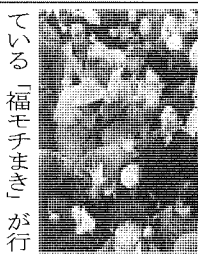


毎年小正月の一大イベントとして行われている塞の神行事が今年1月10日成人の日の昼夜にわたり浅原神社境内で盛大に開催された。

日にちが変更されたので人が少ないのではないかと心配していた関係者も、昨年なみの出でホッと胸をなでおろしていた。

昼の部は小若連のモックラモチ、おんまいなどで幕開け。風雨の悪天候にもかかわらず大勢の人が集まり、午後2時30分から片貝商工振興会と片貝煙火協会による、豪華景品引換券が入った

「福モチまき」が行われた後、小塞の神に点火された。メインの夜の部は午後6時から浅原神社の参道にずらりと並べられた、百八灯ロースクに点火されると同時に川上、川下の二組にわけられた、成人翠心会(吉原新会長)による御神火送りが出発。小若連によるモックラモチ、おんまいなどが到着後、午後7時から開会式



が行われ、関広一市長と木村一男県議等の新年の挨拶があり、ステージには今年42歳の厄年を迎えた出船会の人達が登場し、大矢敏之会長の挨拶の後、出船会提供「福モチまき」が行われ大勢の人達がこぞって福モチを拾っていた。

成人翠心会の仕掛け花火

やったぞ！バスケの片貝中

中越親善で2年連続9度目の優勝

第31回中越地区中学校親善バスケ大会(片貝町体育協会主催)が、1月16日片貝中学校体育館で開催された。片貝中学校が見事2年連続9度目の優勝を飾った。母校片貝中をより強くし



顧問の北見義樹教諭は「センターの高さを生かす攻撃の練習を積んだ結果を発揮出来たことが勝利につながったのでは」と喜びを語っている。△メンバー▽安達勇二郎、藤塚明史、小比田俊樹、吉井亨、吉原洋、小野塚昂平、石上崇博、本多優、佐藤洋平、吉田豊、安達富昭、小林孝広、山田貴弘、黒崎諒、大矢智史

主張

小正月行事とモックラモチ

片貝でも十五日に行なわれてきた塞の神行事が十日に変更され、この果下にある塞の神行事をカメラにおさめたものも目論んでいたマニアたちは、伝行事だから変更なく今までもおり十五日に行なわれるものと思いはるばる訪ねてきたのに既に終わったあとでっかりして帰ったという話も聞いた。

伝統というか昔に思いをはせる人は今迄通り一月十五日が望ましいと思いかも知れないが、これだけは実際の行事の運営に携わるものにとっては大変な労力で、関係者

主張

この行事も少子化傾向で最近小学校の女の子も加わって黄色い声もあがっているのをみると何とも奇妙で、この「おんまい」の唄では野卑であるし第一意味が通らない。あれは曳きまわすとき誰か後から人が歩いてくると思ふ、ぎけでやったもので何の意味もない。「もぐらもち」おくり

の打ち上げ、成人の塞の神に点火、そしていよいよ市内を誇るメインの大塞の神に点火され、火は勢よく燃え上がると同時に、ナイヤガラが仕掛け花火と数発の花火が豪快に打ち上げられ光の競演となり、塞の神の火がおちくと、集まった若男女はそれぞれが持ち寄ったスルメモチを焼く姿が目立ち、火にあたり一年間の無病息災を祈願していた。また今年も例年の通り、浅原神社境内には10店程の露店が立ち並び賑わいを演出していた。今年残念だったのは、つとぐみ会の有志たち

かたかい春秋

12月中にかな。寒波が来て、北海道の降雪があり、道の方は降るが、新潟県に経済活動する人達にとっては、スキー場関係者、散策客がいつ行なわれるか、小淵首相の胸の内、は知るべきもないが、今回の定数削減をめぐるやりとりを、投票の判断材料にするのもひとつの手かも知れない。党利党略で動き、国民のことを考えないことをやると、しつぱ返しに来る方が緊張感が生じよう。ただし、ぶと考えての政治以外の国民の方も賢くならなければならぬ。

節目を迎えた

代表者の抱負

成人翠心会会長 吉原新
昨年11月より私達翠心会は、成人として最初の行事である塞の神の準備が始まりました。

初めはどのように仕事をすすめていくかわからず、しかも62人という少人数であります。

1月15日、浅原神社にて翼進会女性会員の御祝いをいただきました。元気に顔をあわせる事ができたのも、家族や町民の皆様を

はじめ、多くの方々の支えがあつての事と感謝の気持ち一杯です。この気持ちを忘れず、厄年の意味を真摯に受けとめながら、新世紀はさらに躍動できるように、努力していきたいと思っております。

先輩方の御指導のもと、秋季大祭の準備にとりくみ始めました。翼進会一同、二十世紀最後のイベントを思いっきり楽しむつもりです。今後も町民の皆様の変りぬ御支援をよろしくお願いたします。

42歳船出会長 大矢敏之
2000年世紀末の区切りある年に、私達船出会は人生節目の42歳の厄年を迎えました。

去る1月10日には、諸先輩方々を始め多くの町民皆様方の協力のもと、厄払いの行事や塞の神での福餅まきなどを無事終了させていただきました。このことができたことに感謝申し上げます。

平成大不況もなかなか脱出できず、リストラの嵐の吹くなか、失業率は「史上最悪」であるそうです。又新聞の社会面では陰湿なニュースが目につく世の中であり、私達、十九世紀は自分達の特色を出し、二十世紀最後を飾る秋大祭に参加したいと思っております。そして二十世紀に向けて新たな決意、展望、創造とかが健康も多過ぎます。親からさず

